

パンデミックが変える社会と報道

日時 2021年 **10月16日(土)** 13時～16時30分 (開場: 12時30分) **オンライン参加** (先着140人)

会場 **西南学院大学・西南コミュニティーセンターホール** (定員89人)
福岡市早良区西新6丁目2番92号 ☎092-823-3952

朝日新聞社 提供

2020年初めに登場し、2年近くに及ぶ新型コロナのパンデミック(世界的流行)で大きく変わった世界、社会の様相。2億人が罹り、455万人が亡くなった。ワクチン接種、新しい治療薬の開発が進み、感染は収束していくのだろうか。メディアは眼前の事象をどう受け止め、対峙し、報道してきたか。差別と分断をはじめ、発生以来のコロナが引き起こし、あぶり出したさまざまな問題、収束の見通し、コロナ後の世界に向け、メディア、報道のあり方の検証も含め、課題と今後の展開、コロナ後の社会・世界を論議する。

《司会》中村 弥和 (西日本支部常任幹事)
《主催者挨拶》藤野 博史 (協会理事・西日本支部長)

【第1部】講演 (13時05分～14時35分)

新型コロナ・パンデミックの 現況と課題、展望



長崎大学大学院教授
有吉 紅也
(熱帯医学・グローバルヘルス研究科)
1959年京都府生まれ。86年旭川医科大学卒、90年ロンドン大衛生熱帯医学大学院修了。オックスフォード大客員研究員、英MRCガンピア研究所などを経て、98年国立感染症研究所主任研究官。2005年より現職。ロンドン大客員教授。

情報社会の現在地から考える コロナ報道



社会情報大学院大学専任講師
橋本 純次
(広報・情報研究科、メディア論)
1990年東京都生まれ。東北大学公共政策大学院、ロンドン大学ゴールドスミス校を経て東北大学大学院情報科学研究科修了。博士(学術)。主な研究分野として、民放地方テレビ局、オーディエンス研究など。2020年より現職。

【第2部】パネルディスカッション (14時55分～16時25分)

新型コロナが変えた社会、変える世界 ～見つめる、考える、伝える～

コーディネーター

パネリスト



RKB毎日放送
報道局担当局長 兼
解説副委員長
神戸 金史



長崎大学
大学院教授
有吉 紅也



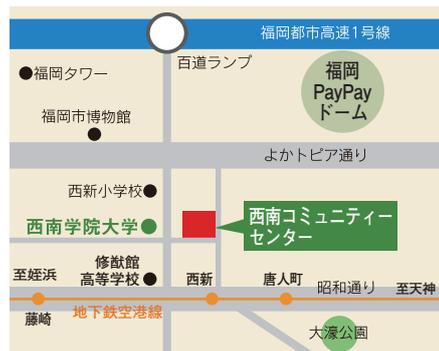
熊本日日新聞社
政経部長 兼
論説委員
田端 美華



西日本新聞
特別論説委員
コラム「時代ななめ読み」担当
永田 健



朝日新聞大阪本社
科学医療部記者
竹野内 崇宏



【感染症対策への注意事項】
・参加者は氏名・住所・電話番号を記入いただきます。
・消毒液による手指消毒をお願いします。
・マスクを着用すること、また大声で会話しないこと。
・人と人との十分な間隔(2メートルほど)を確保してください。
・発熱・体調不良がある方は入館をお断りします。

オンライン
ライブ配信

申し込まれる方は、氏名、参加方法(会場、オンライン)、メルアド、携帯電話番号、職業、会員・一般の別など明記し、支部事務局 (Mejawest@mejaw.jp) までお申し込み下さい。右記QRコード(申し込みフォーム)からも申し込めます。オンライン参加の方には、URLを開催前日までにメールで連絡します(Zoomウェビナーで配信)



参加無料
(会員、一般とも)

新型コロナ感染拡大の際は
オンライン配信のみで開催します。

お問い合わせ
お申し込みは

特定非営利活動法人
日本医学ジャーナリスト協会 西日本支部
〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-2-6-303

E-mail ▶ Mejawest@mejaw.jp
Web ▶ http://mejaw.jp
電話 ▶ 090-2082-9824 (藤野支部長)

※このシンポジウムは福岡観光コンベンションのMICEハイブリッド開催支援・安全対策支援助成金を受けて行います。